

7 目標を達成するために行う事業及び実施主体

7-1 事業メニュー

前項で設定した基本的方針の実現に向けて、中井町においては次の事業を実施する。

【生活交通に関する基本方針】

- ①高齢者等交通弱者に対する移動手段の確保
- ②新たな公共交通システムの導入による町全体の公共交通の充実
- ③民間バス路線の利便性向上と新たな公共交通システムとの連携強化
- ④「みんなで創り、守り、育てる」地域公共交通の実現

【事業展開メニュー】

事業1：中井町オンデマンドバスの実証運行及び検証

事業2：中井町オンデマンドバスの利用促進方策及び収入確保策の検討

- 継続的な地域住民等への広報・周知
- 車体の外装デザイン等の工夫
- 多様な割引運賃制度の導入検討
- オンデマンドバスと路線バスが一体となった公共交通マップの作成・配布
- 地元企業等のホームページへの掲載
- 運賃収入以外の収入確保策の検討

事業3：民間バス路線・オンデマンドバス等の公共交通機関相互が連携するための環境整備

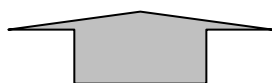
- 乗継拠点の整備（ベンチ・上屋、駐輪・駐車場の設置等）
- 乗継運賃割引の導入検討

事業4：モビリティ・マネジメントの実施

- 企業と連携したエコ通勤の推進

事業5：公共交通対策の充実

- 福祉有償運送サービスとの連携方策の検討
- 不採算路線の今後のあり方検討
- バスターミナル等の整備のあり方検討
- 地域連携方策の検討



【町全体の公共交通網の基本的な考え方】

幹線システム、支線システムとの機能分類による階層的なネットワークの形成を目指す

幹線システム	路線バス（神奈川中央交通(株)、(株)湘南神奈交バス）
支線システム	新たな公共交通システム
乗継拠点	町役場周辺（比奈窪バスターミナル）、井ノ口公民館、五所宮周辺

7-2 実施すべき事業

【事業1】中井町オンデマンドバスの実証運行及び検証【中井町、バス事業者、町民】

平成25年1月10日から2月28日まで実証実験を行った中井町オンデマンドバスについて、平成25年度以降も引き続き実証運行を実施する。

実証運行中は、利用実績（登録者、利用者の推移、利用の多い乗降ポイント等）や利用者登録者へのアンケート調査、地区懇談会等による利用意向等を把握した上で、評価・検証し、適時運行サービスの見直しを行っていく。

なお、当面は平成24年度に実施した実証実験での結果等を踏まえ、次の点についてバス事業者等と協議・調整を図りながら検討を行っていく。

- 利用登録者数の増加（広報等による継続的な周知等）
- 運行エリア及び乗降場所の拡大（鉄道駅への乗入、町外の商業施設・医療機関など）
- 予約受付・予約期限（予約受付日・時間帯等の見直し）
- 運行日（休日）・運行時間帯の改善・見直し

■中井町オンデマンドバスの運行概要（現行）

利用条件	利用者登録すれば誰でも利用可能（但し、ご自身で乗降可能な方に限定）
運行地域	町内全域（乗降ポイント120箇所） 町外4箇所（秦野赤十字病院、ヨークマート西大竹店、マックスバリュ二宮店、西友二宮店）
運行日	毎日運行
時間帯	午前7時から午後8時まで
利用料金	大人（12歳以上）……………町内200円/町外300円 小人（6歳～12歳未満）…町内100円/町外150円 ※未就学児は2人まで無料（保護者同伴）
予約受付	電話予約……………午前8時30分から午後5時（土日祝日と年末年始は休み） インターネット…24時間予約可能

【計画期間】

	H25	H26	H27	H28	H29
事業1：中井町オンデマンドバスの実証運行及び検証					

■中井町オンデマンドバスの評価・検証項目例

検証項目	評価方法
利用実績 ・利用登録者数、地区別登録率 ・利用者数（1日平均、曜日別、1便平均など） ・利用の多い乗降ポイント など	システム等によるデータ収集
利用者の視点（利便性・改善点） ・利用者満足度（運行時間帯、運賃、予約方法（予約時間、オペレーター対応等）、乗降ポイント等） ・利用して良かった点 ・利用しなかった理由、改善点	利用者登録者へのアンケート調査など
路線バスへの影響度の視点 ・従前の利用交通手段（路線バス等からの転換有無）	利用者登録者へのアンケート調査など
運行面の視点 ・電話予約時で改善すべき点、オペレーターへの負担度 ・運行上の問題点、利用者の声	オペレーターヒアリング 運行事業者ヒアリング

事業2：中井町オンデマンドバスの利用促進方策及び収入確保策の検討

●事業2-1：継続的な地域住民等への広報・周知【中井町、バス事業者】

町では、広報なかいによる継続的な特集（みんなで守る、みんなで育てる公共交通）や民間の広報媒体を活用してオンデマンドバスを始め公共交通の周知を行ってきたが、実証運行期間中も利用状況等を継続的に掲載し周知を行っていく。同時に周知用チラシの鉄道駅等での配布や、新聞折り込み等についても検討する。

さらに、美・緑なかいフェスティバル（中井中央公園）の開催時に「(仮称) 公共交通利用促進ブース」を設置するなど、中井町オンデマンドバスの周知や利用者登録の推奨、車両展示等を行い、普及啓発に努める。



【事例】富士宮市・のりもの祭でのイベント等の開催

富士宮市では、産業フェア時にのりもの祭を開催し、車両展示や、写真入りカレンダーの作製、公共交通にちなんだクイズ（宮バスの回数券などを景品）、スタンプラリー等を実施。



●事業2-2：車体の外装デザイン等の工夫【中井町、バス事業者】

車体の外装デザインについては、見た人が好奇心をいだき、乗ってみたいと思わせ、オンデマンドバスが走る広告となって遠くから見ても容易に識別できるような車体の外装デザイン等についても工夫・検討をする。



【事例】車体外装デザインの工夫



▲瀬戸内市デマンドバス（地元高等学校美術部の学生によるデザイン）



▲有田市デマンドバス（子供にも人気のデザイン）



▲ニセコ町デマンドバス（町と商工会のキャラクター配置したデザイン）

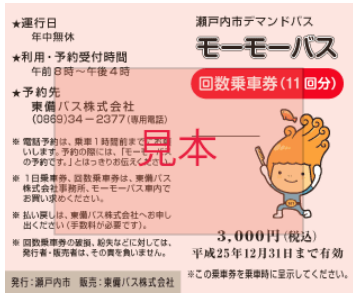
●事業2-3：多様な割引運賃制度の導入検討【中井町、バス事業者】

平成25年1月10日から開始した実証実験の利用料金は、基本運賃のみで行ったが、利用登録者アンケート調査において、「PASMOなどの電子マネーの導入（23.4%）」「多様な割引運賃制度の導入（10.9%）」に対するニーズが求められている。

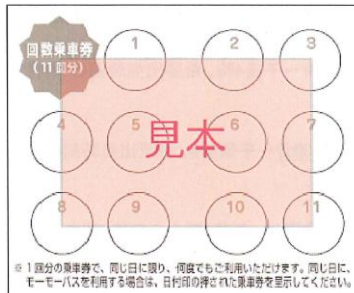
平成25年度以降の利用者実態等を踏まえ、障がい者割引、1日券やPASMO、定期乗車券（通勤・通学）、回数乗車券等の導入に向けて検討する。

【事例】瀬戸内市デマンドバス・回数券及び1日券

回数乗車券及び1日乗車券は車内、バス事業者事務所にて購入。



▲回数乗車券



▲1日乗車券

【事例】安曇野市・運転免許自主返納者へのデマンド交通回数券の交付

高齢者等の交通事故防止対策のひとつとして、自主的に運転免許のすべてを返納した場合、デマンド交通「あずみん」の乗車回数券9,000円分を交付（支援は1回限り）。



【事例】福井県あわら市・デマンド交通を利用した場合の特典

あわら市では、デマンド交通（エリア型、町内を3ブロックに分割）を利用し、特定の店舗で買物した場合の特典サービス（全商品5%割引、〇〇円以上買物した方に粗品進呈、ポイント2倍進呈など）を進展。



●事業2-4：オンデマンドバスと路線バスが一体となった公共交通マップの作成・配布【中井町、バス事業者】

オンデマンドバスは、町民、利用登録者に対して「利用ガイド」、「ポケットガイド」の配布により、オンデマンドバスに特化した情報提供となっている。

オンデマンドバスの利便性をより一層高めるためには、路線バスと一体となった運行情報（乗継拠点等での路線バスの運行ダイヤなど）を提供するなど、公共交通全体の利用者の底上げをすることが必要であり、オンデマンドバスと路線バスが一体となった公共交通マップの作成・配布について検討する。

●事業2-5：地元企業等のホームページへの掲載【中井町、企業等】

オンデマンドバスの利用登録者数や利用者数を増やすためには、数多くの広報媒体を通じて周知することが重要であるため、ピースハウス病院、グレースヒル湘南、県立中井やまゆり園や社会福祉協議会など、地元企業等へのホームページにオンデマンドバスの運行概要等を掲載できるよう協議を進めていく。

●事業2-6：運賃収入以外の収入確保方策の検討【中井町、バス事業者、町民等】

中井町オンデマンドバスの持続可能な運営のためには、利用者を安定的に確保するとともに、運賃以外の収入確保についても工夫していくことが必要である。車両への広告掲載や乗降場所である企業・店舗等からの協賛金やオーナー制度（ネーミングライツ）など様々な方法により安定した収入を得ることを検討する。

【事例】富士宮市（宮バス）・バス停オーナー制度及びサポーター制度

○バス停オーナー制度

富士宮市では、安定的な運賃と地域と共に公共交通を守り育てることを目的に、バス停オーナー制度を設置。市はバス停オーナーに対し、バス停への掲出や市が発行するチラシ・ポスター等への名前の掲出、ホームページへの掲載、車内放送での名称アナウンス及びPR放送を実施。協力金はバス停一基当たり年額60,000～180,000円（公益事業所は19,200～60,000円）。



4ルートで41事業者が支援。

○宮バスサポーター制度

市内の事業者や団体から、回数券の印刷やのりもの祭の際の景品提供など様々な形で協力を募り、宮バスを支える仕組みを導入（12事業者が参画）。

【計画期間】

	H25	H26	H27	H28	H29
事業2-1：継続的な地域住民等への広報・周知			継続的実施		
事業2-2：車体の外装デザイン等の工夫	協議・調整			検討・実施	
事業2-3：多様な割引運賃制度の導入検討	協議・調整	検討・実施		継続的実施	
事業2-4：オンデマンドバスと路線バスが一体となった公共交通マップの作成・配布	協議・調整	作成・配布		継続的実施	
事業2-5：地元企業等のホームページへの掲載	協議・調整			検討・実施	
事業2-6：運賃収入以外の収入確保方策の検討		協議・調整		検討・実施	

事業3：民間バス路線・オンデマンドバス等の公共交通機関相互が連携するための環境整備

●事業3-1：乗継拠点の整備【中井町、バス事業者】

民間バス路線と中井町オンデマンドバスを連絡する乗継拠点は、バス事業者と協議・調整を図りながら、ユニバーサルデザインに配慮した改善（上屋やベンチの設置など）や駐輪・駐車場の設置など、バス待ちにおける利用者の利便性・快適性の向上を図る。



▲比奈窪バスターミナル



▲井ノ口公民館



▲五所宮バス停周辺

【事例】ハイグレードバス停（広告掲載や路線バス運行情報等）



▲福岡市・天神中央郵便局前



▲横浜市・本町4丁目



▲盛岡市・県庁市役所前

●事業3-2：乗継運賃割引の導入検討【中井町、バス事業者】

民間バス路線との競合の観点から検討課題となっている秦野駅及び二宮駅へのアクセスについては、利用登録者アンケート調査においても追加して欲しい乗降場所として上位を占めている。

オンデマンドバスから路線バスへの乗継については利用者のうち1割と少ないものの、路線バスが運行していない地域の乗継による利便性の向上を図るため、乗降場所の改善・見直しと合わせて、オンデマンドバスから民間バス路線への乗継運賃割引制度の導入について検討する。

【事例】富士市・乗継割引券の導入

富士市では、バスをより利用しやすくするために、コミュニティ交通（コミュニティバス、デマンドタクシー）⇄路線バス、コミュニティ交通⇄コミュニティ交通の乗継割引券（1回当たり50円割引（小学生・障害者手帳所持者は30円割引）を導入（通常1乗車200～500円）。販売場所は車内及び各事業者の営業所窓口。



【計画期間】

	H25	H26	H27	H28	H29
事業3-1：乗継拠点の整備		協議・調整		順次整備	
事業3-2：乗継運賃割引の導入検討	協議・調整		検討・実施		

【事業4】モビリティ・マネジメントの実施

●事業4-1：企業と連携したエコ通勤の推進【中井町、バス事業者、企業】

町内には東名秦野中井インター周辺に多くの企業や工場が集積し、従業員は自家用車や二宮駅、秦野駅から運行する企業送迎バス等で通勤している。

二宮町では、二宮駅北口駅前広場の整備が進められ、一般車の駅前広場への進入規制や企業送迎バスの駐車規制など公共交通に関する状況が大きく変化している。

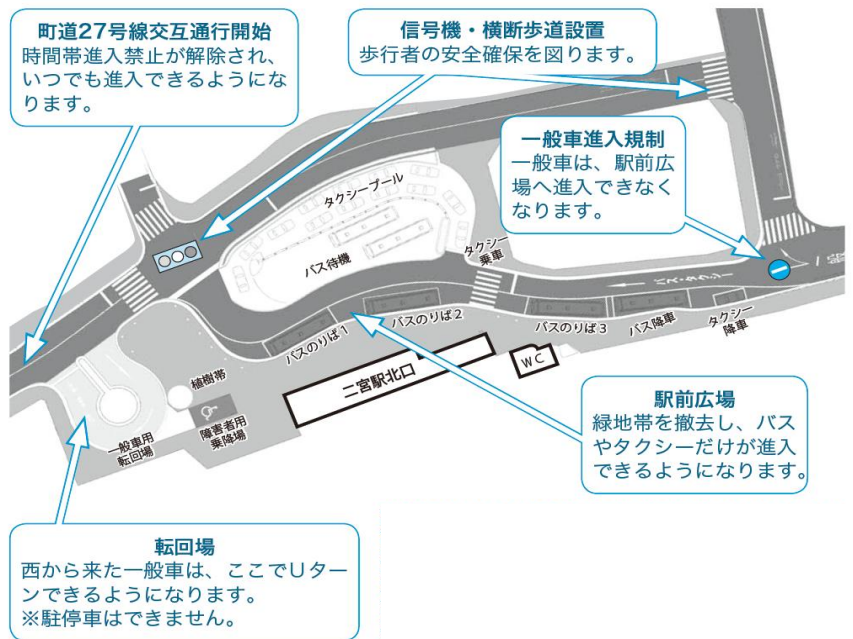
このため、周辺市町と連携して公共交通機関に関する情報提供やノーカーデーの推奨、フォーラム開催等による普及啓発活動により町民や従業員等の意識改革を図り、過度な自家用車利用から公共交通利用への転換、エコ通勤を推進する。



▲レインボーカントリー倶楽部送迎バス



▲日立システムズ送迎バス



▲二宮駅北口駅前広場完成予想図

(出典：広報にのみや（平成24年11月号）)

【計画期間】

	H25	H26	H27	H28	H29
事業4-1：企業と連携したエコ通勤の推進	●————→ 協議・調整				

【事業5】公共交通対策の充実

●事業5-1：福祉有償運送サービスとの連携方策の検討【中井町、社会福祉協議会、バス事業者】

中井町では、町民誰もが安心して円滑に移動できるよう、公共的施設や道路環境などのバリアフリーの推進や社会福祉協議会による福祉有償運送サービスを実施しており、オンデマンドバスとの連携の可能性について検討する。

■福祉有償運送「しらさぎ」のサービス概要

①利用対象者	○介護保険の要支援または要介護の方 ○身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者の手帳の交付を受けている方 ○歩行困難な方
②利用目的	○病院治療等による通院または入退院 ○福祉施設への入退所 ○買い物、公共機関等での諸手続き
③利用回数	○原則1回につき2時間以内、月2回の利用を限度
④利用料金	○町内一律500円、町外片道500円（利用人数により異なる）
⑤利用の範囲	○足柄上郡、南足柄市、小田原市、秦野市、厚木市、伊勢原市、平塚市、中郡
⑥運行日及び時間	○月曜日から金曜日（ただし、祝日および12月29日から1月3日までを除く） ○午前8時30分から午後5時まで
⑦登録・予約窓口	○中井町社会福祉協議会
⑧その他	○車いす利用者や介助が必要な方は1名の同乗が必要 ○利用日の3日前までに電話予約

●事業5-2：不採算路線の今後のあり方の検討【中井町、バス事業者】

町内のバス路線の利用者数は減少傾向にあり、なかでも秦野駅～震生湖～比奈窪線は赤字路線のため、町が運行費補助を行っている。また、二宮駅～比奈窪～高尾線は運行本数が1日7本で利用者も少なく不採算路線となっており、民間バス事業者の自主努力により路線が確保されている。

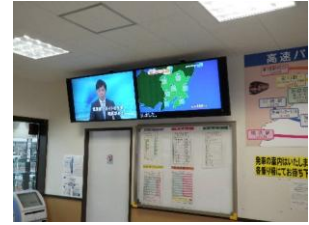
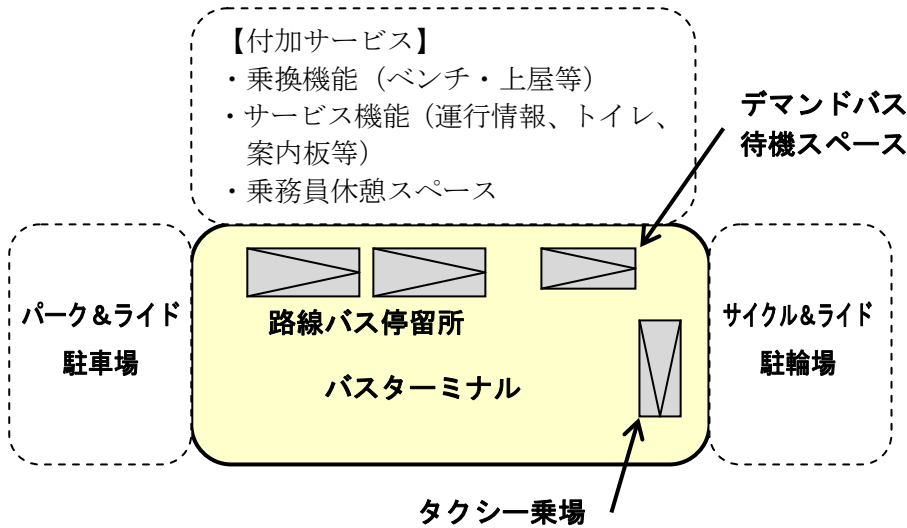
これら路線は中井町オンデマンドバスとも競合するため、実証実験期間中の検証結果を踏まえ、今後バス事業者や周辺市町（秦野市、大井町）と協議・調整を図りながら、今後のあり方を検討していく。

●事業5-3：バスターミナル等の整備のあり方の検討【中井町、バス事業者】

町内を運行中の民間バス路線や、中井町オンデマンドバスの運行事業者であるバス運行事業者の営業所は秦野市内にあるため、中井町まで回送運行が必要で非効率となっている。

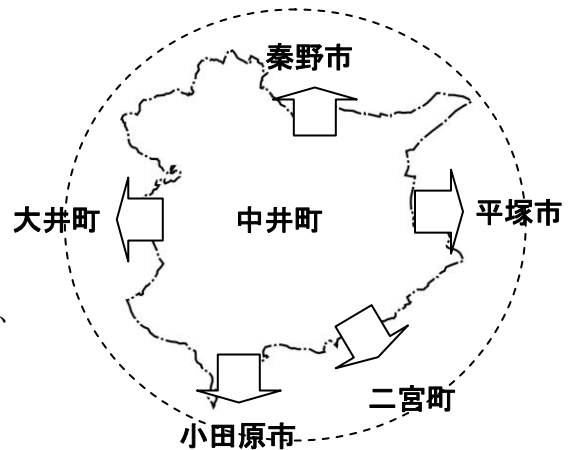
このため、運行の効率化や利便性（運行サービス）等の観点から、バス相互の乗継等が可能な拠点（待機場、休憩所等）や、駐車場や駐輪場等の整備などのあり方について検討する。

■バスターミナルの整備イメージ



●事業5-4：地域連携方策の検討【中井町、周辺市町、バス事業者】

町内のバス路線は、JR東海道線二宮駅と小田急線秦野駅を主な起終点に運行している。また、秦野市と二宮町に中井町オンデマンドバスの町外目的地を設けるなど、公共交通体系は中井町だけで改善されるものでない。さらに周辺市町では公共交通が無い又は不便な地区も存在している。このため、中井町オンデマンドバスや不採算路線のあり方を検討するにあたっては、周辺市町と連携を図りながら、デマンドバスの運行エリアの拡大など今後のあり方を検討する。



【計画期間】

	H25	H26	H27	H28	H29
事業5-1：福祉有償運送サービスとの連携方策の検討			協議・調整		
事業5-2：不採算路線の今後のあり方の検討	協議・調整		検討・実施		
事業5-3：バスターミナル等の整備のあり方の検討		協議・調整		検討・実施	
事業5-4：地域連携方策の検討	協議・調整		検討・実施		

7-3 事業一覧

中井町における実施すべき事業については、次のように整理される。

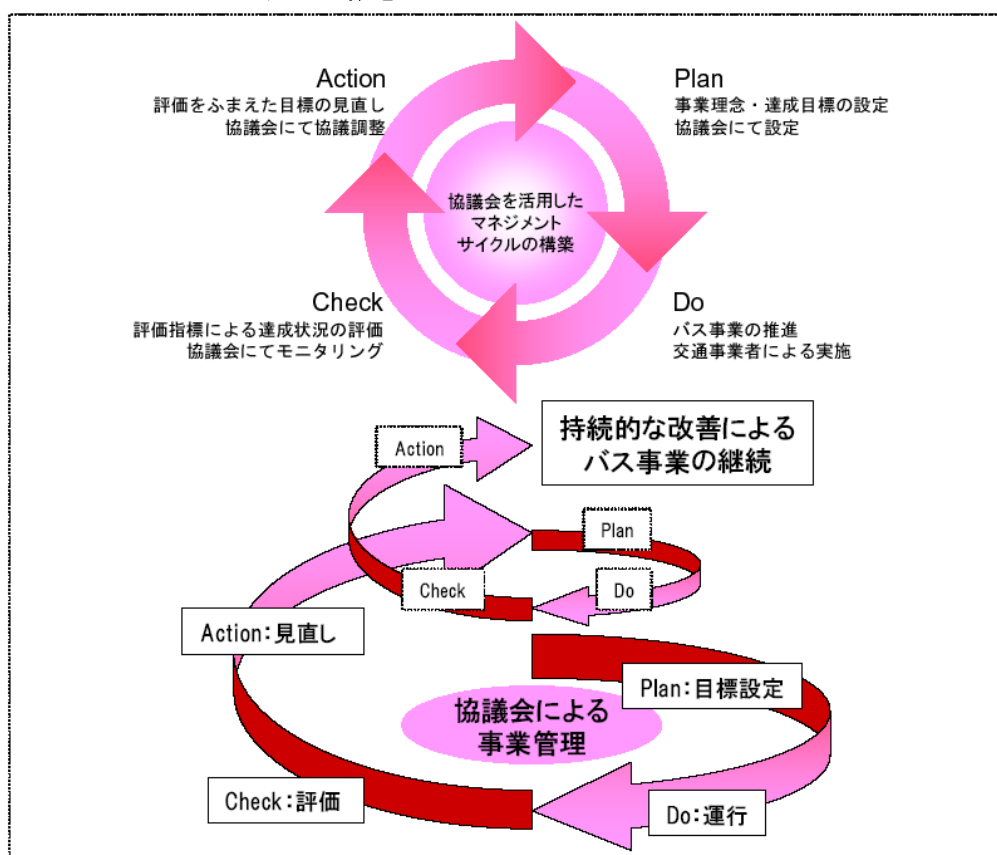
事業名		実施主体	H25	H26	H27	H28	H29		
事業1：中井町オンデマンドバスの実証運行及び検証		中井町、バス事業者、町民	実証実験（適時運行サービスの見直し）						
事業2：中井町オンデマンドバスの利用促進策及び収入確保策の導入	継続的な地域住民等への広報・周知	中井町、バス事業者	継続的实施						
	車体の外装デザイン等の工夫	中井町、バス事業者	協議・調整		検討・実施				
	多様な割引運賃制度の導入検討	中井町、バス事業者	協議・調整		検討・実施		継続的实施		
	オンデマンドバスと路線バスが一体となった公共交通マップの作成・配布	中井町、バス事業者	協議・調整		作成・配布	継続的实施			
	地元企業や社会福祉協議会等のHP等への掲載	中井町、企業等	協議・調整		検討・実施				
	運賃収入以外の収入確保方策の検討	中井町、バス事業者、町民等	協議・調整			検討・実施			
	事業3：民間バス路線・オンデマンドバス等の公共交通機関相互が連携するための環境整備	乗継拠点の整備	中井町、バス事業者	協議・調整			順次整備		
乗継運賃割引の導入検討		中井町、バス事業者	協議・調整		検討・実施				
事業4：モビリティ・マネジメントの実施	企業と連携したエコ通勤の推進	中井町、バス事業者、企業	協議・調整						
事業5：公共交通対策の充実	福祉有償運送サービスとの連携方策の検討	中井町、社協、バス事業者	協議・調整						
	不採算路線の今後のあり方の検討	中井町、バス事業者	協議・調整		検討・実施				
	バスターミナル等の整備のあり方の検討	中井町、バス事業者	協議・調整			検討・実施			
	地域連携方策の検討	中井町、周辺市町、バス事業者	協議・調整		検討・実施				

7-4 PDCAサイクルに基づく事業評価の実施

事業の実施にあたっては、数値目標の達成度を評価し事業継続の判断や利用者ニーズに応じた改善などを行うため、「中井町地域公共交通会議」を継続的に運営し、PDCAサイクルに基づく評価・検証を行い、効率性と利便性を高めつつ進化する路線バスや中井町オンデマンドバスの実現を目指す。具体的には、次に示す指標と数値目標を目指して継続的に検証する。

- 目標1：公共交通に対する満足度向上…現状：18.8%→平成29年度：25%
- 目標2：オンデマンドバスの利用者数及び登録者数の増加
 - 1日当り利用者数…現状（実績）：約10.6人/日→平成29年度：40人/日
 - 登録者数……………現状（H25.2末現在）1,429人→平成29年度：約3,000人以上
- 目標3：日常の交通行動の不便さを感じる人の減少…現状：52.0%→平成29年度：40%

■PDCAサイクルの概念



資料：コミュニティバスの事業評価の手引き（国土交通省中部運輸局、平成21年3月）

※概念図で示されている協議会は、中井町の場合は中井町地域公共交通会議となる。

■PDCAサイクルに基づく評価・見直しスケジュール

	H25	H26	H27	H28	H29
中井町地域公共交通会議の開催	○	○	○	○	○
中井町オンデマンドバス実証運行		実証実験	(適時運行サービスの見直し)		
評価・検証	→				